

## 平成28年度後期 学部(群)教育改善計画

学部(群)名	共通教育(基盤教育群)
学部(群)長名	金子孝一

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学部(群)全体で改善すべき重点課題について3つ挙げてください。	
①	カリキュラム編成が変わり、授業評価科目運営の連続性(科目と教員)が担保されていないこと
②	基盤教育の科目分野ごとの括りはできたが、分野教員がすべき教育改善のタスクが決めきれていないこと
③	教育改善の系譜、履歴という遺産が教員個人に埋没していて顕在化できていないこと。
1-(2). 上記の3つの課題をそれぞれ解決するための取組と、その具体的な進め方(5W1H等)について書いてください。	
①	新カリが動いた H29 年度にあつて、多くの非常勤担当が専任化され、授業評価科目運営の連続性が担保できる環境に近づきつつある。この環境を教員会議などの共有機会を使って、科目運営そのものの課題を明らかにし、教育費予算も含め改善に向けた実践の実効性を高めたい。(お金と仕組みと組織)
②	4年後のさらなるカリキュラム改変を視野にいれて、現在の新カリの科目分野の括りをベースに、科目群ごとの改善課題把握と個々の科目への反映を目指して、分野教員 Mtg や研修・研究会(マイクロ FD)に予算をつけて実効化できる体制の整備をしたい。特に、学群を超えて多くの教員が参加する FC 群と、基盤群所属教員の多くが参画するグローバルコミュニケーション分野は再区分を検討したい。
③	②の取組みにおいて、履歴を残せる、ケースを記録しておく、さらに見える化ができる＝講義で受講生と Share できる仕組み、表現方法などを検討したい。(まずは、アラジン・ニガラの授業評価システムの稼働を心待ちにしたい)

2-(1). 各科目の授業改善計画書から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・到達目標の受講生への周知法の工夫並びに科目群での統一した取り組み</li> <li>・文字情報以外の映像や音声などメディアなどの取込みと文化・歴史比較などへの興味の誘引</li> <li>・オリジナルテキスト作り</li> <li>・自宅学習時間を確保してもらうための復習や予習のミニクイズなど</li> </ul>	
2-(2). 上記の事例を学部(群)全体でどのように共有して教育改善につなげていくか、具体的な進め方(5W1H等)を書いてください。	
<p>1-(2)で記載した教員会議、科目分野 Mtg・研究会(マイクロ FD)を使った情報・事例発掘と共有の継続をマネジメントしてゆく。方向は、授業改善を教員個々だけでなく、分野教員 Gr の問題としても扱い、課題解決のグループ・ダイナミクスを期待すること。</p>	

## 平成28年度後期 学部(群)教育改善計画

学部(群)名	看護学部(群)
学部(群)長名	吉田 俊子

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学部(群)全体で改善すべき重点課題について3つ挙げてください。	
①	学生の意見からは、レジュメの内容把握しやすさへの要望や、講義前後でのフィードバック効果、実技では集団教育と個別対応の組み合わせを行うことでの学習効果が伺えた。科目全体の流れと各講義の位置づけを確認したり、個々の学習状況の振り返りをおこなっていけるような工夫が必要と考える。
②	学生からは、グループワークの評価方法や学習内容の明確化、試験内容と講義内容との相違などの意見があった一方で、教員側は、学生の理解困難な部分や、到達度が低い内容への改善にむけての意見が多くみられている。学生と教員間で、到達度への理解が一致していないところがあるのではないかと。
③	授業評価のアンケート平均回答率が23%台(0%~41.9%)と平成28年度前期よりは改善したものの、全体を反映していない。
1-(2). 上記の3つの課題をそれぞれ解決するための取組と、その具体的な進め方(5W1H等)について書いてください。	
①	平成29年度FDにて、看護学群における教育の質向上の方策の検討を11月8日(水)9時~12時に実施する。新カリキュラムの基盤教育における学生の学修状況を共有した上で、どのような改善を図るべきか、また、新たな教育方法として導入できるものはあるかなど、具体的な取組を共有して、新たな視点での看護学群の教育のあり方について検討する予定である。2-(1)項目に挙げている事例が、本課題の解決方法として考えられることから、本FDにて共有を行う。
②	ループリックを整備していくことが、学習課題の明確化や達成度や評価を学生、教員ともに相互に明確にすると考える。全学の今年度の進捗状況を確認しつつ、学群での整備をさらに図っていく。
③	平成29年度より授業時間内で行う方策をとっているが、看護は演習やグループワークなども多いため、入力作業日が取れなかったり、演習日程などの影響を受けることも考えられる。平成29年度前期の結果集計、入力状況、内容の確認を行い、その結果を踏まえて今後の方策検討が必要と考える。

2-(1). 各科目の授業改善計画書から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。	
・演習において、毎回実技のデモやWEB動画などを行い、自主学習しやすくするための工夫の実施している。講義内容の前後での小テスト等でのフィードバックやワークシートポートフォリオで学習の進捗ができる工夫を行っている。	
2-(2). 上記の事例を学部(群)全体でどのように共有して教育改善につなげていくか、具体的な進め方(5W1H等)を書いてください。	
教員会議、専門科目担当者会議等に共有をはかるとともに、平成29年度FDにて、看護学群における教育の質向上の方策の検討を11月8日(水)9時~12時に実施する具体的な取組を共有する予定である。	

## 平成28年度後期 学部(群)教育改善計画

学部(群)名	事業構想学部(群)
学部(群)長名	風見正三

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学部(群)全体で改善すべき重点課題について3つ挙げてください。	
①	授業運営における Moodle の活用は未だ十分ではなく、予習・復習の状況を把握し、学習支援システムの基準化を図ることが必要である。
②	授業の達成目標の記載が明確でない科目も散見されるため、体系的な授業計画や効果的な教授法の検討が必要となる。
③	アクティブラーニングの導入が不十分であり、学部や学群の特性や履修モデルを踏まえながら効果的な導入の検討さらに進めていく必要がある。
1-(2). 上記の3つの課題をそれぞれ解決するための取組と、その具体的な進め方(5W1H等)について書いてください。	
①	Moodle の活用状況の確認を行い、学習支援システムとしての効果の検討を行うとともに、学部の教務・学生WGを中心に、FD等の機会に、操作方法や活用方法についての講習を行い、教員へのサポートを推進する。
②	授業の達成目標の状況を把握するとともに、学類毎に、体系的な授業計画や効果的な教授法の参考となる事例を共有し、後期の授業計画への反映を進めていく。
③	現在の授業におけるアクティブラーニングの導入度を教授会等で確認し、教務・学生WGを中心に、アクティブラーニングの事例研究や学類等における検討課題や取り組みを明確にしていく。

2-(1). 各科目の授業改善計画書から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部の専門機関共同し、最新の価値概念をプログラムの中に取り入れる。</li> <li>・講義の中で実事例を取り上げることにより、体験型の課題にして意識を上げる。</li> </ul>	
2-(2). 上記の事例を学部(群)全体でどのように共有して教育改善につなげていくか、具体的な進め方(5W1H等)を書いてください。	
教授会(教員連絡会議)の中で、定期的な授業改善の検討の時間を設定し、学類毎の進捗状況をモニタリングするとともに、その進捗を確認していく。	

## 平成28年度後期 学部(群)教育改善計画

学部(群)名	食産業学部(群)
学部(群)長名	西川正純

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学部(群)全体で改善すべき重点課題について3つ挙げてください。	
①	前期同様、各教員は授業の理解度を深めることを重点的に取り組んでいるが、いまだ理解が進まない学生が少なからず存在している。授業時間内での理解を深めるため双方向型授業やアクティブラーニング授業等の実施は急務であると考える。
②	座学講義科目については、予習・復習など授業外の学修が相変わらずなされていない。事前、事後、自己学習を推進するため、課題の出し方の工夫が必要と考える。
③	授業評価の回収率が10～30%と前期に比べ向上したが、さらなる改善が必要である。また、アンケートの「授業の進め方の良かった点」、「改善すべき点」についてのコメント記入も低調であったことから、記入を促進する手立ても必要である。
1-(2). 上記の3つの課題をそれぞれ解決するための取組と、その具体的な進め方(5W1H等)について書いてください。	
①	本課題については、9月の教員会議や教授会、学類会議で情報の共有化を図ると共に、双方向型授業やアクティブラーニング授業の一環として、まずはグループワーク、ピアサポートシステムについて学群・研究科の教務委員会を中心に講習会等を企画・実施する。
②	本課題については、9月の教員会議や教授会、学類会議で情報の共有化を図ると共に、後期授業内でのグループワークやLTD (Learning Through Discussion) を通じた課題発掘による授業外学修の定着実現、さらに定期的な小テストや練習問題等の実施について、学群・研究科の教務委員会を通じて周知する。
③	本課題については、9月の教員会議や教授会、学類会議で情報の共有化を図ると共に、授業時間内(14回目、15回目)での実施を、学群・研究科の教務委員会を通じて周知する。また、アンケートのコメント記入の促進策についても書式レイアウトの見直しも含め、9月の教員会議や教授会で協議する。

2-(1). 各科目の授業改善計画書から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。	
「グループワークによる発表によって、苦勞したけれども理解が深まった」、「コメントカードに質問や感想を記入してもらい、次の講義でフィードバックすることで知識の定着化が図られた」など	
2-(2). 上記の事例を学部(群)全体でどのように共有して教育改善につなげていくか、具体的な進め方(5W1H等)を書いてください。	
双方向型授業、アクティブラーニング授業、授業外学修の定着に向けた講習会を学群・研究科の教務委員会で年度内にスケジュール化して実現する。	